

## 社会情報学専門演習

担当者：内田 忠賢（文学部・教授）

開講時期：後期

週時間：金曜 5・6 時限

履修者数：17名

### 授業概要・目的

本演習科目では、年度初めに公表した共通テーマ「物見遊山」という大枠をもとに、履修者各自が自らの関心に沿って、具体的なテーマを設定し、調査・研究結果を報告しました。報告内容は、各テーマをめぐる現状分析、各テーマを考える際の切り口の検討など、いわば戦略的な予察です。特に、私たちの身近な場所・モノ・ヒトを、いかに「物見遊山」の対象にできるかという点で、情報交換を行いました。本GPのキーワード「生活観光」のテーマ4「生活観光の設計と情報の発信」に関して、特に「設計」を念頭に置いて、演習を進めました。

なお、本演習の研究対象は奈良に関係するものだけでなく、海外に及びました。また、授業に関連し「生活観光」のフィールドワークを2回行いました（自由参加、1月25日、3月1日）。

以下、報告テーマを列挙しておきます。

- ・ 演芸場：特に吉本興業の劇場について
- ・ 廃墟を訪ねる
- ・ 女一人旅：バックパッカーになろう！
- ・ 個人が発信する観光地：Xmasイルミネーションの世界
- ・ 観光旅行
- ・ 温泉旅行
- ・ 学生運動について
- ・ 健康食品：蔓延する「健康」とその問題
- ・ パンダと人寄せ
- ・ 現在も息づく関西の新地
- ・ 産業としての「サブカルチャー喫茶店」
- ・ ご当地検定
- ・ 能楽
- ・ モーターショー（自動車の祭典）
- ・ 軍艦島：廃墟から近代化遺産へ
- ・ テレビ局のイベント
- ・ 地域おこし
- ・ 奈良女子大の学生運動について
- ・ 全国イルミネーター事情
- ・ 動物園の展示
- ・ 日本の文化 遊廓
- ・ 都市伝説
- ・ ホテルに関する常識
- ・ ご当地検定ブームの背景
- ・ 女性向けコンセプト喫茶発祥の地 池袋
- ・ 銭湯
- ・ 複合カフェ（インターネットカフェ・漫画喫茶）
- ・ ロボット競技について
- ・ 世界の祭り
- ・ 日本人とダイエット
- ・ 増加するゲストハウス

### スケジュール

日程	内容
10月5日	ガイダンス
10月12・19・26日	各テーマの研究報告（2名/日）
11月9・16・30日	同上
12月7・14・21日	同上
1月9・11・25日	同上（2～3名/日）およびミニ・フィールドワーク（銭湯めぐり）
2月1・6日	同上（2～3名/日）
3月1日	フィールドワーク（都市における民族文化）

### 取組内容・成果

本科目は、「ユルい対象を真面目に学問する」をコンセプトとしました。学部の演習でもあり、小難しい理論や難解な概念は一切、排除することを心がけました。ともかく、面白可笑しい報告を受講生に要望したのです。受講生たちは、各自が心惹かれた研究対象を、自由な発想で調査研究してきました。学術的には物足りない部分もありますが、その分、非常に活発な授業となったと自負しています。

文学部・社会情報学専攻の学生11名のほか、同学部の古代文化地域学専攻、地域環境学専攻の学生各1名、理学部から2名、梨花女子大（韓国）からの交換留学生2名が積極的に参加しました。この異種混合（ハイブリッド）な受講生の構成のお蔭で、専門性という蛸壺に落ちない、多様な視点・発想が可能になったと評価しています。

「生活観光」に深く関連するテーマとしては、特に、「廃墟」「イルミネーション」「喫茶店」「学生文化（学生運動）」「都市伝説」「銭湯」などが取り上げられました。アカデミックを指向しがちな本学の研究テーマとして、従来、取り上げられにくかったテーマ群です。

まず、「廃墟」。近年、廃墟マニアが注目されています。建築系ほかでは、廃墟の一部を近代化遺産と名づけ、保存・活用する動きもあります。「朽ち果ててゆく」モノを鑑賞するという発想は、陳腐で「影」の部分の評価しない、いわゆる「町づくり」等とは一線を画します。このテーマに関心を持った学生は「近代化遺産」という耳障りの良い言葉を好まず、世間的に無意味、無価値になっていくプロセスが面白いと言います。文学部的な発想だと感心しました。

「イルミネーション」とは、住宅街などで個人宅を覆う電飾のことです。最近、これが身近な観光名所となっているとはマスコミ各社が伝えるところです。自宅の電飾に情熱を捧げ、見物客が集まることを至福とする「イルミネーター」たち。このテーマに辿り着いた学生は、夜な夜な、あちこちの住宅街に電飾を求め、歩き回ったと言います。そして、イルミネーターたちに突撃取材を行いました。お金儲けにならないことこそ、最大の楽しみということを再認識した研究成果でした。

「喫茶店」を調べた学生は、メイド喫茶に代表されるコスプレ喫茶（執事喫茶などを含む）に取材に出かけるだけでなく、その経営実態などを各種業界資料から調べました。一方、インターネットカフェや漫画喫茶は、彼女たちの身近なアイテムになっています。

「銭湯」もレトロ趣味の観光スポットになりつつあります。銭湯マニアが注目される昨今ですが、このテーマを調べた学生は、銭湯めぐりを敢行し、番台のおじさん、おばさんや、入浴客にインタビューを試みました。

「喫茶店」「銭湯」とくれば、かつては「学生文化」に到達します。この「学生文化」のイメージは1960～80年代の大学生文化です。現在の学生にとって、完全な歴史的過去の時代。ある学生は、60・70年代の学生が、なぜ学生運動に熱中し、どのような学生文化を生み出したかに関心を持ちました。そこで、文献に当たるだけでなく、現在、オジサン、オバサンになった世代や、現在、奈良女子大で自治会活動を行う学生たちにインタビューをしました。

「学校の怪談」に代表される都市伝説も、学生にとって、身近にある、ちょっと怖いけれども、心引かれる対象です。幼い頃、怖いもの見たさで、近所の廃墟、通称「お化け屋敷」を訪れた体験や、高校生の頃、古い校舎にまつわる怪談で、ゼミは盛り上がりました。実体がないことこそ、感情や価値の源泉があることを学ぶ機会でした。

これ以外にも、とても興味深い研究発表が目白押しでした。対象の面白さだけでなく、切り口も新鮮で、「生活観光の設計」に相応しい授業になりました。



フィールドワーク  
(OG、学外者も)

## 今後に向けて

最初にも書いたように、本科目は生活観光現代GPの「設計」に関連する演習になったと思います。次年度は、本科目だけでなく「発信」に比重を置いた演習科目（キャリアデザイン・ゼミナール）を新設開講します。